

倫理 研究課題 <西洋07>

教科書：p ~ 資料集：p ~ ノート：p ~

●合理論（大陸合理論）

知識：生得観念（先天的な認識の枠組み）を基礎として得られる

法則・原理：理性による確実な原理から論証を積み重ねることで得られる（演繹法）

①デカルト

古代・中世の不確実な知識を排し、確実な知識を探究。

○真理発見のための4つの規則（原理）

理性（良識・ボンサンス）はすべての人が平等に有している。

その理性を正しく使って真理に到達するための方法として4つの規則を提唱

明証の規則、 分析の規則、 総合の規則、 枚挙の規則

→こうして人間は自然の主人になり得る（近代科学の大目標） （←パスカルの批判）

○方法的懐疑

明晰判明な原理を発見するために、あえて全ての事物を疑ってみた。すると、

→あらゆることを疑っている自分自身の思考の存在は疑い得ないことに気づいた

∴「我思うゆえに我あり（コギト・エルゴ・スム）」。（ラテン語）

○世界観

実体：他に依存することなく、それ自体で存在するもの

精神（本質＝思考）と物体（本質＝延長）の2つ（物心二元論）、（+神）

人間：精神と身体から成る（心身二元論）

身体は機械のような存在（機械論的世界観） （⇔目的論的世界観）

※後に修正して、精神と身体は脳内の松果腺でつながっているとした

○道徳論

暫定道徳（仮の道徳）を立てて生活しながら、真の道徳を探究

→高邁の精神（身体からわき起こる情念をコントロールする理性の働き）を重視

★自分自身はどこまで自覚的に生きているか、話し合ってみよう。
